

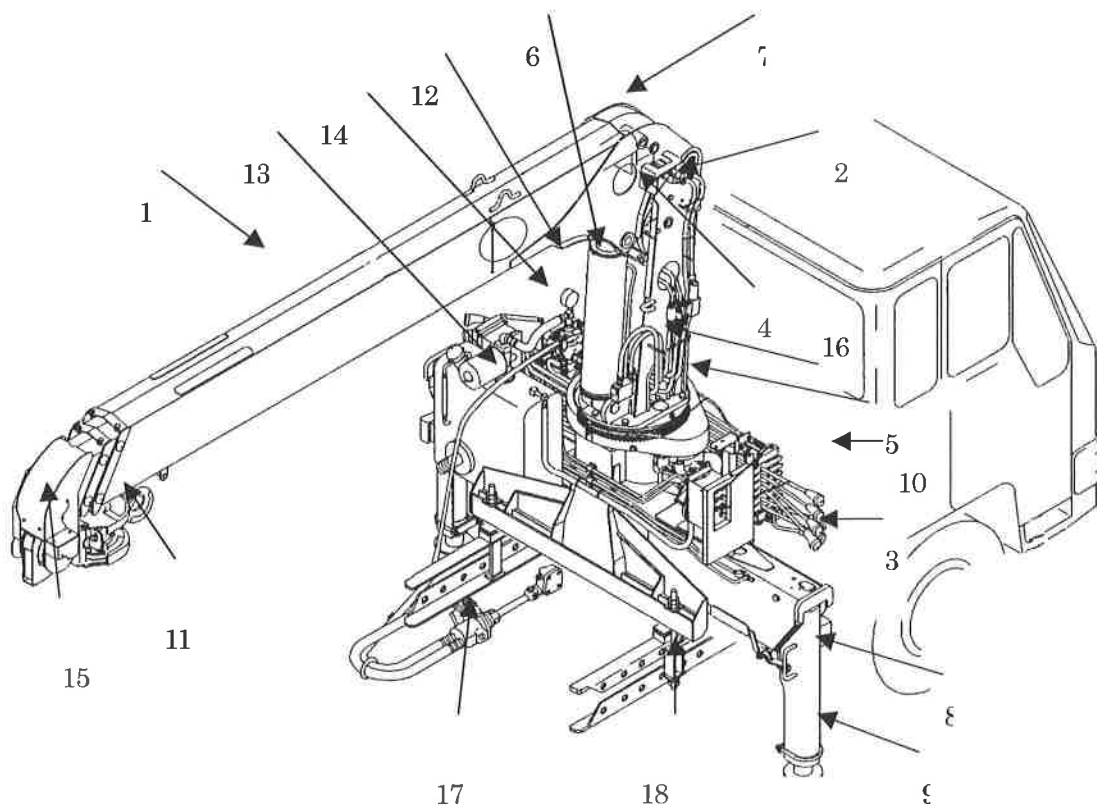
積載形トラッククレーン架装部解体マニュアル

本解体マニュアルは代表的な機種の一般的な解体例を示し、掲載された図等は実物と異なる場合があります。

この解体マニュアルは解体業者が安全に解体するための参考例です。解体作業に当たっては、(社)日本自動車車体工業会のホームページに掲載されている「解体マニュアル(車体工業会共通)」も参考に、解体場所、設備、用具等に注意し、安全作業及び環境保全に留意し、関係法令を遵守して行ってください。

尚、本解体マニュアルにて解体作業を実施された際に、お客様または第三者に損害が生じた場合、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

1. クレーン各部の名称



- | | | |
|-------------|--------------|---------------|
| 1. ブーム | 7. テレシリンダ | 13. 作動油タンク |
| 2. コラム | 8. アウトリガ | 14. コントロールバルブ |
| 3. ベース | 9. アウトリガシリンダ | 15. ワイヤロープ |
| 4. ホイストウインチ | 10. 操作レバー | 16. スイベルジョイント |
| 5. 旋回装置 | 11. フック | 17. 油圧ポンプ |
| 6. デリックシリンダ | 12. 荷重計 | 18. 架装ボルト |

2. 事前処理

- ①解体は作動油等が流出しないように、出来るだけ屋内で行ってください。
- ②油圧機器の油圧配管・ホースを取り外す際は、作動油を受けるためのオイルパンを用意してください。
- ③作動油タンクの容量及び全体油量の目安は以下の通りです。

機種	作動油タンク容量	全体油量
小型車架装クレーン	約25ℓ	約40ℓ
中型車架装クレーン	約35ℓ	約55ℓ
大型車架装クレーン	約60ℓ ～ 約90ℓ	約85ℓ ～ 約130ℓ

- ④油圧部品、配管等を外す場合、場所によっては高圧の作動油が封じ込まれている場合がありますので、取り外しの際には十分注意して作業を行ってください。
- ⑤クレーンがまだ動かせる状態の場合はフックを地面に降ろし、ワイヤロープをドラムから繰り出しておきます。
- ⑥各部の部品を外す際は、必ずクレーン等で外す部品を支え、安全に留意し作業を行ってください。

3. 解体手順

- ①作動油タンクのドレンプラグを外し、作動油を抜き取ります。
注意：作動油は可燃物です。火気に注意してください。
- ②各シリンダ、モータ、コントロールバルブに接続されている油圧配管、ホースを外します。
- ③操作レバーを外します。
- ④クレーンでブームを吊り、ブームとコラム、デリックシリンダを接続しているピンを抜いて、ブームを取り外します。
- ⑤ブームを解体し、テレシリンダを外します。
- ⑥コラムとデリックシリンダを接続しているピンを抜いて、デリックシリンダを外します。
- ⑦ホイストウインチを止めているボルトを外し、ホイストウインチを外します。
- ⑧ドラムを止めているピンを抜き、ホイストウインチのドラムをコラムから外します。
- ⑨旋回装置とコラムを止めているボルトを外し、コラムを外します。
- ⑩スィベルジョイントを止めているボルトを外し、スィベルジョイントを外します。
- ⑪ベースと旋回装置を止めているボルトを外し、旋回装置を外します。
- ⑫ベースに止めているコントロールバルブを外します。
- ⑬アウトリガとアウトリガシリンダを止めているボルトを外し、アウトリガシリンダを外します。
- ⑭アウトリガをベースから外します。
- ⑮作動油タンクを外します。
- ⑯油圧ポンプを外します。
注意：油圧ポンプはドライブシャフトを介して取り付けられている場合も有ります。
- ⑰架装ボルトを外し、ベースを外します。
- ⑱以上でクレーン架装部の大まかな解体は終了です。
解体した油圧部品内部に残留している油脂類を全て抜き、適切な処理を行ってください。